

Pudu Roboticsが約1億5000万ドルを調達、 企業価値は15億ドルを突破

Pudu Robotics（本社：中国深セン、日本法人Pudu Robotics Japan 株式会社 代表取締役社長：張涛、以下、PUDU）は本日、新たな資金調達ラウンドで約**1.5億ドルを調達**したことを発表しました。今回の資金調達ラウンド後、**同社の評価額は15億ドルを超えました**。数十億ドルという金額は、PUDUの技術的な障壁、商業的な拡張性、そして世界的なリーダーシップに対する資本市場の強い信頼を反映しています。今回のラウンドでは、PUDUの累計資金調達額は**現在3億ドルを超えています**。



資金調達による収益は、**開発を加速するために戦略的に活用される予定です**。AI技術を組み込み、製品ポートフォリオを拡大し、グローバル市場への進出を深め、製造能力を増強し、サプライチェーン能力をさらに強化します。これらの取り組みは、急速に進化する商用サービスロボット分野における当社のリーダーシップを強化し、将来の資本市場における重要な節目に向けた強固な基盤を築くことを目的としています。

Pudu Roboticsは、商業サービスロボット分野で最も急速に成長している企業の1つとして台頭しています。サービス配送ロボット、業務用清掃ロボット、産業用配送ロボット、エンボディドインテリジェントロボットのマルチセクターアプローチにより、**2025年には前年比100%という驚異的な収益増加を達成**しました。特に、**同社の業務用清掃ロボット製品は総収益の70%以上を占めるまでに成長**し、産業配送ロボットは市場投入からわずか1年で**4,000台以上が出荷されるなど、急速に普及**しています。

この商業的な成功は、PUDUの広範なグローバル展開によってさらに裏付けられています。PUDUのソリューションは、カルフル、ウォルマート、EDEKAなどの世界有数のブランドに広く採用されています。Frost & Sullivanの「世界の商用サービスロボット市場調査（2023年）」によると、**Pudu Roboticsは世界市場シェアの23%を占め、世界第1位にランクインし**、国際的な導入においても業界をリードする地位を維持しています。深センに本社を置き、成都と香港に専用の研究開発センターを構える同社は、**ナビゲーションアルゴリズム、マルチロボットスケジューリング、モーションコントローラー、統合型ジョイントモジュールなどのコアコンポーネントのフルスタック開発を通じて、技術的な限界を押し広げ続けています。**

Pudu RoboticsのCEOである張涛は、「今回の資金調達には、PUDUの業界におけるリーダーシップ、製品と技術力、グローバルブランド、そして商業インフラに対する強力な証明となるものです」と述べた。戦略的投資家および産業パートナーの支援を受け、PUDUは今後もAI搭載型ロボットと商用サービスロボットの限界を押し広げていきます。私たちは発明家の精神で革新を続け、グローバルなビジョンを活用してロボットの普及を加速させ、グローバルバリューチェーンにおける業界を新たな高みへと引き上げることに尽力してまいります。

Pudu Roboticsについて

Pudu Roboticsは、AIとロボット技術を通じて、より容易な仕事とより良い生活を実現することに尽力しております。世界100億人にサービスを提供するグローバルなインテリジェントロボットインフラの構築を目指しています。移動、操作、相互作用という3つのコアテクノロジーに基づいて構築されたPudu Roboticsは、「一つの脳、複数の具現化」アーキテクチャを採用し、専用型ロボット、セミヒューマノイドロボット、ヒューマノイドロボットを含む包括的な製品ポートフォリオを構築しています。

現在、Puduはサービス配送ロボット、業務用清掃ロボット、産業用配送ロボット、エンボディドインテリジェントロボットという4つの主要製品ラインを提供しています。同社のソリューションは、小売、ホスピタリティ、製造・産業施設、食品・飲料、不動産・資産管理サービス、医療、エンターテインメント・スポーツ、教育、公共サービスなど、幅広い業界で活用されています。現在までに、Pudu Roboticsは世界中で12万台以上の製品を出荷しており、80以上の国と地域で事業を展開している。